



平成 29 年 1 月 31 日(火)  
練馬区立開進第四小学校  
校長 佐々木 秀之

# 開四小だより

## 2月号

### 昔 遊 び

校長 佐々木 秀之

一月は行く、二月は逃げる、三月は去ると言われるように、年が明けてから早一ヶ月が経ちました。区内の学校では、インフルエンザが流行し、学級閉鎖、学年閉鎖をしているところもあるようです。手洗い・うがいの励行だけでなく、十分な休養や睡眠、バランスのとれた食事などご家庭のご協力をよろしくお願いいたします。

さて、今一年生は生活科の学習で「昔遊び」に取り組んでいます。「独楽回し」「羽根突き」「凧揚げ」などは伝統的なお正月遊びですが、日常的に遊ばれていた「お手玉」「あや取り」「おはじき」「折り紙」「けん玉」など、太古の昔から続く遊びも、私たちの心を楽しませてくれます。「お手玉」「あや取り」「おはじき」などは、「隔世伝承遊び」(祖母から孫娘へと受け継ぐ)の代表であり、裁縫や正座などもこれらの遊びをとおして、行儀作法として身に付けてきたといわれています。

「おはじき」は古く奈良時代からあり、主に宮廷での大人の遊びとされていたそうです。「おはじき」は指先の器用さが勝利のかぎのようです。

「折り紙」は一枚の紙を使って形を作り、その出来栄を楽しみますが、折り紙に必要とされる細かな手先の動きは、脳の発達にも大変よいとされ、いまや全世界から注目されています。平安時代の昔、紙は大変な高級品で、貴族の間ではその紙を使って贈り物をいかに美しく包装したことが原点といわれているそうです。

「けん玉」は技の難度を競い合って遊ぶ物ですが、遊びという枠を超えてスポーツとしても楽しまれています。また、医療用にリハビリ用けん玉などもあると聞きます。正式な競技用のけん玉はすべてにおいてバランスが取れており、難しい技を行うにはこれを使うのがよいそうです。一番難しい技とされる大皿のふちとけん先の間に玉を乗せる「うぐいす」という技に、私も挑戦してみましたが、全くできませんでした。一度挑戦してみたいかがでしょう。

これらの昔遊びはどれも器用さを必要としているようです。どの遊びも簡単にできるようにはなりません。神経を集中させ、頭を使い、粘り強く繰り返すことにより指先の器用さ、タイミング、リズム、細やかさなどを養ってくれます。日本人が「器用」で「忍耐強い」といわれることの一つにこのような秘密が隠されているのかもしれない。

家で祖父や祖母から昔遊びを教わることが少なくなりましたが、太古の昔から続く日本古来の伝承遊びとして、伝え続けたいものです。